

専門研修プログラム名	湊川病院 精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人尚生会 湊川病院	
プログラム統括責任者	白井 豊	

専門研修プログラムの概要	<p>○民間精神科病院が基幹施設である本プログラムは、大学病院や公立病院が基幹施設であるプログラムとは異なり、より臨床実践的な内容で、将来的に精神科医療を全般的にみることが出来る臨床医の養成を目指している。○連携施設群は神戸市の中核的な医療を担ってきた良質な医療機関だけでコンパクトにまとまっており、かつ地域的にもすべての連携施設が基幹病院から公共交通機関を使って1時間以内で移動が可能である。○精神科医療の中で重要な位置を占める精神科救急・急性期治療を学ぶことができる。本プログラムで経験できる症例は多彩で、かつ経験豊富な指導医から貴重なアドバイスを受けることができる。</p>	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	<p>○1年目は、基幹施設である湊川病院で上級医について主に入院患者の診療に副主治医として当たる。経験を積むに従い、主治医として入院患者を担当し、適宜上級医にアドバイスを受けながら、自ら判断して治療できるようになる。○外来診療の経験は、主に担当した患者の退院後のフォローから始まる。2年目になるころには、自分の外来枠を持つようになっている。○2年目は、湊川病院でさらに症例経験を重ねるとともに、連携施設である診療所に週半日出かけ、地域医療や児童思春期精神医療を学ぶ。○3年目は半年ごとのローテーションで、神戸市立医療センター中央市民病院でリエゾン精神医療、アネックス湊川ホスピタルで認知症医療を学ぶ。あかしここのホスピタルで児童思春期精神医療を学ぶ。</p>	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	患者および家族との面接、疾患概念と病態の理解、診断と治療計画、補助検査法、薬物療法、精神療法、心理社会的療法など、精神科救急、リエゾン・コンサルテーション精神医学などを学ぶ。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	毎週火曜日にランチンセミナーおよび専攻医対象の症例相談会が行われている。国内学会の参加は年1回認められていて、参加費等については院内規定に沿って支給される。臨床研究や基礎研究に関して学ぶ機会が開かれているので大いに自己研鑽に励んでもらいたい。
	学問的姿勢	文献や学会・研究会から多くの知識や技能を学ぶと同時に、臨床場面で患者から多くのことを学ぶ。そうして得た新たな知識や技能を今度は自分の方から社会に向けて発信できるようにする。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	コアコンピテンシーとは、精神科専門医にとって極めて重要な核となる能力を言う。日本精神神経学会の専門医研修ガイドラインの中には、患者や家族の苦痛を感じ取れる感性を錬磨し、苦痛を和らげるための努力を続ける姿勢など、10項目が挙げられている。
	年次毎の研修計画	初年度は基幹病院にて精神科医としての基礎的な素養を身につける。2年次は基幹病院にて引き続き研修を行い、アルコール・薬物依存症などの精神科の中でも専門性を必要とする症例の経験を重ねる。そして、指導医のもとで自立して診療できるようにする。

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	研修施設群と研修プログラム	3年次には半年交代で2か所の研修施設をローテートする。神戸市立医療センター中央市民病院では、リエゾン精神医学を学び、アネックス湊川ホスピタルでは認知症疾患の医療を経験する。あかしこころのホスピタルで児童思春期精神医療を学ぶ。
	地域医療について	診療所連携施設では、湊川病院では症例の少ない神経症性障害や児童思春期症例を経験することができる。また、特別養護老人ホームの嘱託医や往診などの地域医療の実際を学ぶことができる。
専門研修の評価	専攻医は1年に1度以上は研修目標の達成度を評価する。その後に研修指導医は専攻医を評価し、専攻医にフィードバックする。研修指導責任者は、その結果をプログラム管理委員会に報告する。専攻医の研修実績および評価の記録には研修実績管理システムを用いる。	
修了判定	研修プログラム統括責任者が、最終研修年度の研修を終えた時点で研修項目の達成度と経験症例数を評価し、それまでの形成的評価を参考として、精神科医として備えるべき知識、技能、態度を習得しているかどうかをプログラム管理委員会の審議を経て判定する。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラム管理委員会では、研修プログラムの作成や、プログラム施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行う。また各専攻医の統括的な管理や評価を行う。
	専攻医の就業環境	研修施設の管理者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努める。また、研修施設の管理者は専攻医の心身の健康維持に配慮する。
	専門研修プログラムの改善	専攻医による評価に対し、研修管理委員会で改善・手直しをするが、研修施設群全体の問題の場合は研修プログラム管理委員会で検討し、対応するものとする。
	専攻医の採用と修了	専攻医の採用は、精神科領域専門医制度に従い、採用する。研修ガイドラインに則って3年以上の研修を行ない、研修プログラム管理委員会でその結果が認められた場合に修了とする。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	日本専門医機構による「専門医制度新整備指針（第2版）」に基づき、専門研修が困難な場合は、申請により、専門研修を中断することができる。他のプログラムへ移動しなければならない特別な事情が生じた場合は、精神科専門医制度委員会に申し出る。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	本プログラムは常に外部からの評価による改善が求められる。そのために研修管理委員会は多職種で構成されている。また必要に応じて日本精神神経学会によるサイドビジットにも応じる。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	○湊川病院：白井豊（院長）、前川かおり、白川治（神戸大学客員教授） ○浅野神経内科クリニック：浅野達蔵（院長）○たかみやこころのクリニック：高宮静男（院長）○神戸市立医療センター中央市民病院：松石邦隆（部長）○アネックス湊川ホスピタル：福本修平（院長）○あかしこころのホスピタル：泉本雄司（副院長）	
Subspecialty領域との連続性	湊川病院は日本精神科救急学会認定制度の認定施設であるため、精神科救急認定の資格を取ることが可能である。日本専門医機構によるサブスペシャリティに関しては、制度そのものが検討中である。	